

会 議 報 告

区 分	内 容
会 議 名	前橋市地域福祉計画策定ワーキンググループ 第1回会議
日 時	令和6年6月20日（木） 17時00分～18時40分
場 所	議会庁舎 303会議室
出 席 者	【委員】 金井委員、兼本委員、原委員、山上委員、山口委員 【事務局】 福島福祉部長 社会福祉課 本間課長、細井副参事、太田副主任
傍 聴 人	なし
開 催 趣 旨	次期地域福祉計画策定に当たっての取組等について委員から意見をもらい、進め方に反映する。
結 果	1 委員長の選出について 金井委員を推薦する意見があり、全会一致で金井委員が委員長に選任された。 2 市民ワークショップについて 主に対象者抽出方法及びテーマ設定について意見交換がされ、会議後においても適宜意見を求めることとした。 3 担当課アンケートについて 現在の施策を社会福祉法第107条第1項各号に振り分けし、課題等をまとめた上で、次回の会議では、委員と担当課との意見交換等を行うこととした。
会議での 主な発言内容	【委員長就任あいさつ】 地域福祉計画は福祉行政の上位計画といわれるが、何をもって上位なのかということが不明瞭なまま一つの分野計画となっている実態が各地でみられるように感じている。前橋市では、横断的に各分野計画に反映させられるような計画にしたいという思いがある。各先生の知見を活かして、忌憚ない意見をいただき議論していきたい。 最終的には審議会での承認となるが、市民や事務局とのつなぎ役となるので、自由に発言いただき、よりよい計画にできればと思う。 【次期地域福祉計画策定の概要について】 （事務局）細井副参事 ・資料1をもとに説明した。 ○WS応募対象者の抽出関係

金井委員長

- ・外国人の割合が増えてきていて、意見は参考になると思う。対象になるのか。

(事務局) 細井副参事

- ・ごみをテーマにした際は対象外としていたかもしれない。住民登録からの抽出なので、対象に含めることも可能と思われる。

山口委員

- ・福祉が必要になったときに、「制度があってよかった、前橋市民でよかった。」というのが最大のアウトカムになるはず。
- ・使われる当事者の意見がどこまで担保されるのか気になる。抽出の仕方は難しいかもしれないが、障害手帳を申請されている方とか、介護保険を使われている方とか、家族とか、そういう方の意見も必要にならないか。福祉計画を作る上で、アンケート調査をそれぞれされているはずなので、それをちょっと拝借して、それを基に議論が進むといいのかなと思う。

(事務局) 細井副参事

- ・仕組みや体制づくりということで、社協や包括支援センター、地区社協がアンケートしたり、意見の蓄積があると思う。社協とは連携する話をしているので、協力しながら進めていく。

金井委員長

- ・ワークショップで話し合うときに、素材としていろいろあるアンケート結果など、関係する人たちの意見を聞いた上で話を進めていくのがよいかもしれない。
- ・抽出した3,000人に宛て、ぜひ参加してくださいという案内文をどのように記載するかというのは肝になる。市民に地域福祉をわかってもらい、意識を高めるための出発点になる。それを市としてどういう定義づけ、理念で市民に示すか。これについて解決したいので、ぜひ議論してください、と言われたときに、こんな意見を出したいな、と思えるような、参加意欲が高まるようなものになるといい。山口委員の言うように、ごみはみんなわかるが、福祉はわかりにくい。
- ・案内文を入れ込むときに、テーマについても一緒に入れ込むことができるか。

(事務局) 細井副参事

- ・今日の資料にあるテーマは仮置き。「地域福祉計画策定にあたって意見をいただきたい。」とするのが通常だが、それだけだと市民に伝わりにくいということであれば、どこまで踏み込んで記載するか、それについては、お知恵、ご意見をいただければ参考にしたい。

金井委員長

- ・絞ったテーマを示してしまうと、それに関する意見を持っていないとなかなか参加しにくくなってしまう。今、地域福祉ではこんなことが課題としてある、という例示を示しておけば、こういう話ができるかな、というのが持てる。

(事務局) 細井副参事

- ・WG で出た意見も踏まえて、今後の構想日本と打ち合わせし、皆さんにご提示して、お時間があればご覧いただきでご意見をいただきながら進めたい。

○WS テーマ設定関係

兼本委員

- ・テーマは同じもので議論していくのか。班の組み合わせはどうするのか。

(事務局) 細井副参事

- ・大きなテーマは一つに決めて進めるのが基本と考えるが、回数を重ねていく中で班ごとに話題の中心は変わるかもしれない。
- ・班編成は、同じにするパターンもあるし、班を毎回混ぜながらすることも。集まった人の雰囲気と話の醸成を見ながら、その場で決めていくと聞いている。提言書にまとめていく作業はしていくので、実績を積んでいる構想日本にお任せをしたい。

金井委員長

- ・テーマについて、ボランティア活動について具体的にどう対応していくのか、あるいは防災について、介護や障害がある方をどうやって助けるかというのは大きな課題になっている。この計画に入っているにしても、全体をどうするかというのはない。地域防災計画にも、ほかの協力を得てというのがあがるが、どんな協力を得るのかというのは書いていない。これらを含めて、どう地域で助け合うのか、というのが一つテーマになってくると思う。

山口委員

- ・いつも課題にとらえているのは連携の難しさ。8050 問題をはじめ、困難事例とされる方々だ。窓口も施策もバラバラで。認知症でいえば、生活支援体制整備に統合すればいいと思うが、それができないという行政的な問題がある。住民からしてみればそんなことどうでもよくて、相談したいのに、たらいまわし。このような問題がずっと続いてきたから、地域福祉計画というものができたのだろう。テーマとしては大きいかもしれないが、ポイントと思う。

金井委員長

- ・一般市民の人にどういうテーマで話してもらおうかといったときに、連携というと難しくないか。

山口委員

- ・困ったときに、どうしたらよいのかわかりにくいというのが、住民として感じる問題点なのではないか。

金井委員長

- ・高齢社会では、買い物、通院といった移動の問題も大きい。重層的支援体制整備事業に取り組むとすれば、横断的に取り組むということが予算編成でできるということ。市として本気で取り組もうとするときに、市民からこういう意見が出た、ということが言えれば進めやすいのではないか。
- ・参加した高校生がどこまで理解しているか、というのはある。

原委員

- ・児童福祉分野と子育て支援について一体化するため、前橋市はすでにこども家庭センターになっている。厳しい生活状況の家族を、住民としてどう関わっていいのかという点が課題と思う。
- ・地域福祉は児童分野が一番遅れていると思うので、住民目線で、何ができるのか、どんな要望があるのかというのは聞いていただきたいところ。

金井委員長

- ・経済的に困窮していたり、どのように支援していくかは課題。日本地域福祉学会のシンポジウムがあったところだが、サポートの事業を見える化すればよいかという点と難しく、貧困家庭の子供たちの支援は見えないままやるのが必要だという考え方もある。
- ・ごみ屋敷にしても同様に、行政・地域に片づけてもらうことを受け入れると大ごとになってしまう。こそっとやる、というのを目標として専門職や住民がかかわる、という新しい戦略も大事かと思う。
- ・自分が支援されているというのを公にしたい方はいくらもいる。

山上委員

- ・テーマとしては、LGBTQ や留学生・外国人もいいのだが、市民会議としてそれを話すとなると違うようにも思う。社協のかたに毎年授業に来ていただくなかで、『フクシ』は『普通の暮らし』の略、という説明が印象的だった。テーマとしては、狭いところではなく、みんなが守っていききたい暮らしを挙げていただくとか、今回は理念のための福祉計画ということなので、具体的な方法は専門的な人たちが考えてそれぞれがやっていけばいいので、もっと上の「暮らしを守る」というテーマでもよく、そのほうが市民も話しやすいかと思う。

金井委員長

- ・広すぎても難しいのではないか。
- ・行政としては、法律に基づいてサービスを提供しており、対象者を決めなければいけない。カテゴライズしなければならないが、そこに入らない人たちがいて、市民や民間が一体となってサポートできるのが望ましいが、そのイ

メージを市民が抱くのはなかなか難しい。

- ・何事もない人にとっては、福祉や医療は、自分から遠い話にしておきたいもの。そこに参画して、というのは難しいテーマ。

○WS運営関係

原委員

- ・ナビゲーターの役割は。市内の人か、市外の人か。

（事務局）細井副参事

- ・専門的な視点からの意見や視点の提供を行う。ごみでやったときは、逗子市の部長がナビゲート役をやっていた。まだ決まっていないが、市内の人、市外の人になる可能性もある。リクエストもできると思う。

山上委員

- ・コーディネーターの役割がすごく大事だと思うが、担保・裏付けというか、その人が誘導する気になれば市民は誘導されてしまうと思う。その人がどういう人かというのは。

（事務局）細井副参事

- ・去年コーディネーターをした人と打ち合わせをしているが、皆さんの意見を重要視しつつ、話が散らばらないよう方向修正はしながらバラバラにならないようまとめていく、と説明を受けている。前回見学したが、上手に参加者の意見を引き出しながら整理して最後まとめていると思う。
- ・構想日本は、日本全国の自治体で実績があり、信頼できる。

（事務局）太田副主幹

- ・構想日本との打ち合わせの中では、行政として議論がこういう方向であってほしいというのがあったとしても、違う方向に進むかもしれない、という話ももらっている。あくまで、参加されている市民の意見でまとめていくという流れになると思っている。

金井委員長

- ・前橋市も広いので、いろいろな人が参加しやすいように各地で、という思いもある。

（事務局）細井副参事

- ・開催場所については、学生の参加もあるので交通の便がそれなりに良いところが良いという考えもある。

○計画策定全般

兼本委員

- ・まちづくりという点からは、地域の公園の維持を例にすると、自治会が管理しているが、高齢化の問題のほか、コロナ禍で会わないようにするという意識も働いてか、その後参加者も半分くらいになってしまった。公園の存在は、地域の魅力につながっているが、それは使える状態を何とか地域で維持しているので価値あるものになっているのである。人口減や高齢化で、地域による維持管理は難しくなっていくことは明らか。地域福祉も、そういうところも意識しながら計画を立てる必要があると思う。

【担当課アンケートについて】

（事務局）太田副主幹

- ・各施策の担当課の意見も聞きたいと要望をいただいたことを受け、アンケートという形で実施した。
- ・委員からは、地域福祉計画に求めるものは何か、というテーマを与えられていたが、地域福祉計画を意識した取組がされてこなかったという実情もあり、できるだけ担当課がイメージしやすいように心がけた。

金井委員長

- ・地域福祉計画について理解されていないという印象。障害福祉課のように個別計画の中で地域福祉計画に該当するのはどこなのかというのを書いていただくのがいいかもしれない。
- ・法律で示している5項目を解説的に示したほうが良いのではないかな。

（事務局）太田副主幹

- ・計画の策定ガイドラインで具体的に示しているので、それを担当課と共有した。

（事務局）細井副参事

- ・①から⑤をもう少しかみ砕いて理解してもらったうえで書き足したり、障害福祉課のように自分たちの計画に基づいて当てはまるように書いてもらうようお願いをすることで変わる可能性はある。
- ・スケジュールで示したとおり、第2回を7月に仮置きしている。その際に、各課事業の概要をお渡ししていて、次回、関連施策の説明としているが、地域福祉計画に基づいた施策の説明、足りないところがあれば、先生たちと意見交換をするイメージ。状況を見ながら今後の進め方は相談したい。

金井委員長

- ・担当課からの主要事業を説明はいらないのではないかな。

（事務局）細井副参事

- ・それぞれの課が地域福祉に向けた考え方・取り組みを意見交換しながら、どう変えていけるか、地域福祉計画に位置付けられるようにしていくか、意識

付けができるように変わっていければと思っている。

金井委員長

- ・今の地域福祉計画で①～⑤で何が入っているかを書きだし、その横に担当課としてどんなことが課題になっているのかを並べてみるのはどうか。

(事務局) 細井副参事

- ・次回に向けて、資料を用意して共有し、次回は担当課の職員も出席して、意見交換や説明するので良いか。

金井委員長

- ・課ごとに各項目でどうなのか並べてみると、見えてくる気がする。単独のシートでみるよりは並べたほうがいい。

兼本委員

- ・地域福祉計画に関係するのは、アンケートの回答がある課だけか。

金井委員長

- ・この福祉分野のほか、教育、住宅、交通や防災の政策と計画がどう合致しているかを見るのも大事。
- ・他分野連携というのが一つの理念になるので、協力してもらわなければならない。

(事務局) 細井副参事

- ・次回に向けて、できたところで早めに共有させていただき、担当課との意見交換をメインにさせていただければと思う。

【その他】

金井委員長

- ・項目にはないが、その他で、オブザーバーとして参加している一柳さんについては、設置要綱第10条により、適宜意見を求めることとしてよいか。委員ではないので参考にするということである。

各委員了承

(以上)